

# おお大勝利

平成 26 年度山東サッカー一部報第 12 号 (7 月 9 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

## 無念！ 3年生有終の美飾れず

7月5日(土) Y2B 第7節山形商業戦が「聖地」山形明正 G で行われました。部報前号にて天然芝の「因縁」について書きましたが、**明正の人工芝は Y2B や M リーグにて良い思い出が多い**。実は県総体の組合せを見た時、「2 回戦は験の良い明正 G だ・・・ということは 1 回戦勝つと期待できる！」と勝手に思ったものでした。監督がこんなことだから、その前の 1 回戦で負けるのですが、とにかく、明正 G には良い印象しかない。今回は第 7 節、ということは 8 チーム 2 回総当たりで行われる Y リーグの前期がこれにて終了ということになる。シーズン前から、「**3 年生のいるこのチームにとって最大の目標は県総体優勝、そして、二つ目の目標が Y リーグ前期優勝だ**」と狙いを定め、リーグ戦前期に対するモチベーションを鼓舞して参りました。ここまで山東は Y2B で暫定首位。2 位の山形商業とは勝ち点 3 差。得失点でも開きがある。よって実は大敗しない限り山東の前期優勝は固かったのですが、3 年生最後の試合を有終の美で締めくりたい、笑顔で引退したい(させたい)わけで、**大変な緊張感をもって試合に臨みました**。

対戦相手は山形商業。2013Y1 にて Y2 に降格しましたが<sup>1</sup>、今年の県総体では見事 3 位に入り、地元山形(庄内地方)で行われた東北選手権に出場した実力校。レギュラーのほとんど(全員?)が特定のクラブチーム出身で、連携に優れている。そして何と言っても 1 年生の活きが良い。県総体 3 位の原動力は 1 年生と言って過言ではない。もちろん 2・3 年生にもタレントがおりますが、県総体の「躍進」は新戦力の加入が大きかった。ということは、今年は当然として来年以降も山商の勢いは続くことが予想される。そんな勢いあるチームとの 3 年生引退試合、どうなるか。新チームへの移行を見据え、前節同様新しいシステムに作り替え、試合に臨む。

清野 OB 会長はいらっしゃいませんでしたが、後藤報道局長、佐竹校長、そして、多くの多くの保護者の皆様が応援に駆け付けて下さる<sup>2</sup>。また、うれしいことに、**1 年時に退部したヒサキとリュージも応援に来てくれた!** そして、**わざわざ関東から大学 1 年生 OB マサノフと、東北大でゴメと同じ経済学部 1 年のチクテツも多忙な中来てくれて**、山東の応援席は賑やか賑やか。3 年生の引退試合という事情を知らない山商の応援の方々、何かと思われたのではないのでしょうか。とにかく、そんな素晴らしい声援を背に、絶好の気候・ピッチの中、10:00 キックオフ。

まずチャンスを迎えたのは山東。しかも、開始 0 分で! CDF 裏へのロングボールをムン

<sup>1</sup> 山東は 2012Y1 にて降格。一期早く降格しました。

<sup>2</sup> とある 3 年生保護者(母)の方などは、朝から(高校最後の試合ということで)涙腺緩みっぱなしだった模様。保護者の方も、選手(チーム)と一緒に、長らく戦ってこられましたね。

タリが収め、GK との 1 対 1。早すぎる決定機に会場が沸きましたが、放ったシュートは惜しくも GK に止められる。「そんな簡単には行かないよ」とベンチで昂奮する自分をなだめる。その後は、しばらく山商ペース。山商は、ツートップが中盤まで降りてきてボール保持（ポジション）に加わるものだから、山東は中盤で数的不利となり、回されるうちに押し込まれる。特に、FW が降りてきて作ったスペースをアウトサイドの選手が走り込んで使う「ゼロトップの攻撃<sup>3</sup>」を見せ、山東ゴールを脅かす。2FW と右 MF の連携が特に良い。また、深い位置取り（下がった位置取り）をするボランチがボールをシンプルに動かし、手厚く攻める。山東は、クリアが中途半端でしかも真ん中に行く<sup>4</sup>ものだから、波状攻撃を受ける。DF からのビルドアップも、果敢に挑戦してはいるものの、安定感に欠ける<sup>5</sup>。そして、**2FW が縦の関係になって相手ボランチの背後からプレスをかけるという「ツートップにおける守備の基本」が身につけていないため、山商ボランチに好きなようにゲームを作らせている**。しかし、山商の攻撃をじっくり耐えていると、徐々にクリロンやサンペー改めサンペス<sup>6</sup>が目立ち始める。そして、ムンタリとコウタがシュートチャンスをつかみだす。コウタは左足で放ったシュートが惜しかった。もう少しボールを左側に置き、体をファーサイドに向ける基本通りの型が作れば、よりゴールの可能性は高まった。ムンタリは主に右サイドからのドリブル突破が効果的。前半一度、ペナルティエリア付近でドリブルで抜け出し、倒されたので、「PK か」と観客席が色めき立つも、判定は警告なしの FK。ムンタリと倒した相手選手の現地点はペナルティエリア（以下 PA）の中だが、ファールが行われた場所自体は PA の外との判定。この判定は妥当でしょうが、ゴールに向かって抜け出した選手を倒したら相手には警告が与えられるはず。これには観客席のサッカー通の方々から「警告でしょう」の声。ベンチでは、紳士たるべく、判定には口を閉ざしました。そんな、**4 分 6 分で山商優勢の前半は、山商が山東 CK から発展したカウンターで人工芝を這うミドルシュートを決め、山東 0 対 1 で折り返す**ことに。前節同様、CK からのカウンターで失点した山東ですが、今回は戻りが遅かったわけではなく、寄せられながらも逆サイドの選手に正確なグラウンダーパスを出した山商の選手と、そのパスを受けて地を這うミドルシュートをサイドネットに突き刺した**山商の選手を褒めた方が良いでしょう**。どちらの選手に対しても、山東の選手の寄せが甘い<sup>7</sup>ということは、言えるでしょうが<sup>8</sup>。

<sup>3</sup> トップの位置（真ん中の高い位置）にいる選手をなくし、中盤を厚くしたうえで、トップの位置にさまざまな選手が走り込みチャンスを作る作戦。もともとは、イタリアの AS ローマというクラブチームが、中心選手トッティをトップにしつつも本来のトップの位置を明け渡す選手＝偽 9 番（9 番とは最前線の選手に与えられることが多い）として機能させることで有名になった作戦ですが、最近では、グアルディオラ現バイエルン・ミュンヘン監督がバルサの監督だったときに、メッシを偽 9 番にし、採用したとこで有名となりました。

<sup>4</sup> 「クリア（する場所）は（ゴールから遠い）外へ」というのは、小学生でも習う基本事項。

<sup>5</sup> これはパスワークが拙いゆえ仕方がない。「ミスするから縦に長いボールを使う」だけでは、（昨年の新人戦や選手権の戦いに見られるように）攻撃に限界がある。失敗をしても、じっくりゲームを作る選択肢は持っておいた方が良いでしょう。

<sup>6</sup> 後藤報道局長がこの山商戦レポートにて、1978 年アルゼンチンワールドカップの得点王ケンペスにちなんでつけたあだ名。流石です。

<sup>7</sup> 考えてみれば、前節の鶴南の三つのゴールも寄せが甘く打たれて失点している。山東の選手は、自分たちの感覚で「この位置からは入らない」「この位置からは良いシュートが行かない」と勝手に思い込み、やられているのでしょ。とすれば、問われているのは、日々のトレーニングにおける感覚であり、試合当日すぐどうなる問題でもないのかもしれない。

<sup>8</sup> この失点シーンに限っては、パサーへの寄せについては改善の余地があるでしょう。シューターへの寄せについては、パサーがパスを出さずに抜きにかかることに備えカバーリングを考えなければいけない（シューターにただきっちりマークに行けばいいという問題ではない）ので、あれが最適な位置取りだったし、寄せが及ばなくても仕方がなかった。しかし、パサーへの寄せでは、近くに味方が戻ってきていたこともあり、

後半は5分5分、または山東6分4分で優勢か。山東は2CDFが厳しい寄せで山商の強力2FWをうまく抑えており、その厳しいディフェンスが攻撃にもつながっている。**何とも惜しいシーンが二つ。一つ目。**ムンタリがまたしても同じく右サイドからペナルティエリアに侵入しようというときに倒される。そして判定はまたしても警告なしのFK。FKという判定はいいのですが……。そして**二つ目。**2列目からの飛び出し<sup>9</sup>から左MFサンペスが決めるも、ラインズマンは旗を上げたり下げたり自信なさ気な対応。結局ゴールは取り消しに。2列目はオンサイドであったと主張する山東の選手はゴールをアピールします<sup>10</sup>が、副審と協議した主審はオフサイドの判定。**主審の判定は絶対**です。県リーグは副審を生徒がやることが多いため、こういう「紛れ」は仕方がない。**きっちりと(紛れなしに)決めなきゃいけないということ**……。こう頭ではわかっていますがね～。何とも惜しいシーンでした。しかし、山東の執念がとうとう実を結んだのが、後半35分ほど。**CKを2年CDFタツルがファーサイドから山なりに逆サイドヘヘディングシュートを決め、1対1の同点へ。**そして、グネグネドリブル<sup>11</sup>の**マッコマン・エイジ**を投入し、追加点を狙う山東。しかし、試合は同点にされた山商が最後の攻勢をかける展開に。山東はここでしっかり山商の波状攻撃を跳ね返せなかった。**最後の最後、アティショナルタイムにCKのこぼれから決められ、残酷な2失点目を喫する。**正直、時間的にここを凌げば引き分けただけに、山商が底力を発揮したというべきか。**県総体前に大けがをしたが、今節やっと75%くらいまで回復したリンちゃんを最後に投入し、最善を尽くすも、タイムアップ。**現実には安っぽいハッピーエンドではなく、非情なものとなりました。泣き崩れる3年生。そして2年生も泣いている。嗚呼、県総体の一回戦に引き続き、またしても重要な試合を勝利に導くことができない監督の情けなさ。ただ、**コウタキャプテンに率いられた挨拶時の山東イレブンが実に爽やかだったことが、せめてもの救い。good loserたる選手諸君を誇らしく思い、勝たせることはできなかったけど、選手の人的成長を感じました。**

最後まで応援ありがとうございました。**3年生保護者の皆様、長い長い旅、お疲れ様でした。今後も山東丸の航海は続きますので、引き続き応援よろしくお願い致します。**早速、今度の日曜日、**連続して山商**と対戦します。新人チームの船出戦、応援よろしくお願い致します。

**7月13日(日) Y2B第8節 山形商業戦 15:00~ @山形明正G**

## 3年生引退そして新キャプテン決定

7月7日(月)放課後、3年生の引退ミーティング引退式が開催されました。3年生は自分の活動の総括・後輩へのメッセージを思い思いに語っていました。

**アカガワサン**「退部しないでほしい、ポジション変更は前向きに、スタメンの地位を得ても慢心せず、ピッチ内で流れを分析し変えられる選手になってほしい」

**シマヌキ**「合宿やフィジカルトレーニングで妥協せず自分を鍛えてほしい、Bチームでもモチベーションを落とさず、部員間の仲の良さを大切に」

---

もっと積極的に寄せでも良かったのではないかな。どちらにせよ、複数人でボールを奪いに行けなかったということは、戻りがやはり遅かったか。上では「今回は戻りが遅かったわけではなく……。山商の選手を褒めた方が良いでしょう」と書きましたが……。どちらも(山商の功と山東の罪とも)ありますね。

<sup>9</sup> このような表現を使う場合は、1列目に(最初に)飛び出した選手はオフサイドだが、2列目の選手はオンサイドであった(オンサイドの可能性があった)場合です。

<sup>10</sup> ベンチでアップしていた選手は真横で観ていました……。

<sup>11</sup> これも後藤報道局長の表現。

**エージ**「当初ガリガリだった自分は1年途中から筋トレに励み、体の強さを武器にした選手になろうとした、筋トレは大切だが『過ぎたるは及ばざるがごとし』やりすぎに注意し、技術練習も大切にせよ」

**ジュンティ**「(回転や左右の位置など)ボールの受け手のことを考えたパスを心がけてほしい、下手でつらくても頑張れば何とかなる」

**ドイ**「礼儀等、社会で必要なことを学ぶことができた、サッカーを勉強すればサッカー観戦でもより楽しめる、サッカーを勉強してほしい」

**レスラー**「向上心を持って(試合に出ても満足せず)最後まで頑張ってもらいたい、最後まで伸びる、罰走を前向きにとらえ自分の力に換えよ、サッカーを楽しみよく観てほしい」

**カツト**「(フェンシング部ではなく)サッカー部に入って良かった、怪我(シンスプリント)に気をつけて、山東はまじめな人が多くフェイントをかけたり股抜きを狙う人も少ない、もっと駆け引きを楽しんで、まだまだうまくなるので練習せよ」

**チカコ**「当初入部を考えておらず軽い気持ちの入部だった、周囲に恵まれ続けてこれた、みんなはどうか部活動ができることを当たり前と思わず感謝の気持ちを持ってほしい」

**ヨーティ**「考えてサッカーする、どんな練習でも(罰走でも)価値を見出してやれば何かを掴める、褒める・励ますのも重要、自分で自分の可能性を見限らないでY1昇格めざせ、」

**リンちゃん**「自分のように大事な時期に怪我をして悔しい思いはしないほしい、高さ・強さはなくとも体のせいにしないでクレバーにプレーしてほしい、自分で課題を抱え込み何度でも辞めようかと思ったが(第一に家族などの)周囲の支えがあり続けることができた」

**クリロン**「相手の予測を外す小さな駆け引きで勝つことがサッカーの醍醐味、そうすれば楽しくサッカー出来る、そのためには『観る』ことがとても重要、自分はドリブル中に『観る』ことができない課題を抱え克服しきれなかった、新GMは甘さを見せずダラダラしてたら罰走させるくらいの厳しさを持って練習を指揮してほしい」

**ケッツン**「冬の練習で自分への低い評価を覆すべく頑張った、冬の練習で個々の差がつく、失敗を恐れず取り組めば伸びる、自分たちは叱咤の声が少なかったのでイージーミスが減らさべくしっかり言い合えるチームになってほしい」

**コウタ**「当初は自分の良さをアピールし続けたが、レギュラーを取ってから慢心し同じミスを平気で繰り返したりミスを恐れる選手となった、それを克服すべく最低でもボールを奪われない選手になるため努力した、試合中自分たちで流れを変えることのできるチームになるためには練習中から常に一人ひとり考えてプレーする必要があるが現状は心許ない、山東サッカー部では辛い走りの練習などを通して妥協しない精神力・忍耐力が身につく一生の財産を得た、これまで主将を支えてくれて感謝している、山東サッカー部で活動できて幸せだった」

**3年生、本当にお疲れ様！ 気持ちの良い形ではなかったけどY2B前期優勝おめでとう！！**

また、その引退セレモニーに先立ち、2・3年生の投票により、新キャプテン、新副キャプテン、そして練習を実際に指揮する新グラウンド・マネージャー2名(GM)が選出されました。

**キャプテンはタイチ、副キャプテンはタツル、GMはシャモジとチャラミとなりました。**